

地下茎と心臓の理材統

13号

'82.10.
地下茎学会
発行

どうしてヒトをわらないのか

台 「細胞」(中2)の学習を組み合わせている。「細胞を教えるの、細胞たちの生きた姿(運動)のなかで教えるべきである」という主張がある。まったくその通りである。形態を覚えることを先行させる学習はつさらぬ。もうひとつ痛切に感ずたことは、細胞分裂といえば、「タマネギ、ソラマメの根端」、生殖・発生といえば、「カエル、ウニ」と、おきまりの材料で、おきまりのコースにあってしまっていることである。生物の、いや理科(科学)全体の目標のひとつが、「ヒトとは…」。「私たち自身と」^は関りかけることであるとするなら、もっと、もっと、「ヒト」のことを学ぶべきではないだろうか。細胞分裂にしても、ヒトの細胞が分裂するのを見る。(Filmで)そして私たちの顔は、タマネギの場合をみる場合と全

つづ ▶◀▶

11月20日(土)例会

福高
化学(準)室
午後2時5分

- ▲ 「植物の世界」(スライド完成!!)中1、公開
- ▲ 自然観察指導員講習会報告
- ▲ 「細胞たちの生」(中2)5分 ▲ 「バツコリアメ」をつくらう。

11月27日(土)学習会

福高
化学(準)室
午後2時5分

- ▲ 「化学入門」(高橋 金三郎著 新生出版)
第7章 塩(イオン化合物) } についてやりまう。
第8章 元素・単体・化合物 } 実験をやりながら考えまう。

▶ / ◀

▶▶ 3 ◀◀] 然ちがうのである。生殖、発生にしても同じことである。..
私たち自身も、「たったひとつ細胞から発生し、今にいたっているのである」
このことを知ること、この過程を見ていくことは、「ヒトとは...」「生命とは
...」と問いかけざるを得ないのである。単に、それを、カッコ付きの「
性教育」などという一領域にとこめこめておいていいはずがないのである。
私たちは、もっと、もっと「ヒト」の学習をおしすすめるべきであらぬ。